

井上靖歴史紀行文集 第一卷

日本の旅



岩波書店

井上靖歴史紀行文集 第一巻 第一回配本(全四巻)

一九九二年一月九日 第一刷発行 ©
一九九二年二月一七日 第三刷発行

定価四二〇〇円

(本体四〇七八円)

著 者 井 上 靖

発行者 安 江 良 介

〒101-02 東京都千代田区一ツ橋二五五
発行所 鐵 岩 波 書 店
電話 〇三三三三・四二二(案内)

印刷・精興社 製本・牧製本

落丁本・乱丁本はお取替いたします

Printed in Japan
ISBN 4-00-004186-X

目 次

詩 三編

ある漁村

二

アスナロウ

四

渦

六

日本の風景

日本の風景

一〇

美しい川

一八

旅情・旅情・旅情

二三

「旅と人生」について

三一

穂高の月

穂高の月

三八

涸沢にて

四一

ただ穂高だけ

四九

沢渡部落

五二

豪雨の穂高

五五

穂高の月・ヒマラヤの月

六〇

梓川沿いの樹林

六六

平泉紀行

雪の下北半島紀行

七四

下北半島のアスナロウ

八五

平泉紀行

九一

大佐渡小佐渡

大佐渡小佐渡

一二〇

佐渡の海

一四八

早春の伊豆・駿河

早春の伊豆・駿河

一五四

川の話

一六一

早春の甲斐・信濃

一六四

夜叉神峠

一六七

薄雪に包まれた高山の町

一七六

京の春

美しい囃の宮——祇園祭を観る

一八〇

東寺の講堂と龍安寺の石庭

一八七

京の春

一九六

桂離宮の庭園に立つて

二〇五

塔・桜・上醍醐

二〇九

十一面観音の旅

二一八

飛鳥の地に立ちて

法隆寺のこと

二二八

私の東大寺

二三七

お水取りと私

二四二

秋の長谷寺

二五四

大和朝廷の故地を訪ねて

二六四

飛鳥の石舞台

二七六

奈良と私

二八三

飛鳥の地に立ちて

二九四

室生寺の五重塔

三〇一

南紀の海に魅せられて

三〇九

佐多岬紀行

筑後川

三二四

佐多岬紀行——老いたる駅長と若き船長

三二七

沖縄の一週間

三四七

解題（福田宏年）

出典一覧

詩
三
編

ある漁村

弾正といういかめしい姓の鋳物屋があつたらしいが、いまは蜘蛛の巣だらけの廃屋の破れた硝子戸に、その名だけを残している。その隣家はひのまる屋という床屋だが、二、三カ月前から主人は商売替えして船に乗っている。

街道に沿つてはこの二軒の家があるだけだ。

小さい石を積んだ石垣、風除けの竹の柵、二、三十戸の漁師の家が、小さい砂浜を持った海縁りに、ひっそりと身を寄せ合つて固まっている。部落の端しの断崖の裾に

は墓石が二十ほど、波しぶきを浴びて立っている。波の浸蝕が烈しいので、やがて海に吞まれるだろう。

ここさいはての部落で、すばらしいのは夕陽だ。真赤に燃えた花のように、家も海も人間も真赤になる。墓石もまた真赤だ。豪華という以外ない。泣き叫びたいような赤さだ。実際にこの時刻に海ねこはいっせいに狂ったように泣き叫ぶのだ。泣き叫び、羽搏き舞うのだ。

アスナロウ

下北半島のアスナロウの林をジープで走った。夕方から雪が落ち、突端の小さい部落へはいった時は吹雪になっていた。同行した森林管理人は宿の土間で、ゴム長の雪を払いながら、アスナロウの交配が寒中、このような吹雪の中で行われるということを語った。

私は昼間通り抜けた鬱蒼たる大原始林が雪に降り込められているさまを目に浮かべながら、絶えてない解放された思いに打たれた。そこでは生と死はスポーツのように

軽快であつた。どうしてこのようなことに気付かなかつたのか。太古から死はまさしく吹雪のように空間を充滿して来るものであつたし、その中に於て、生はアスナロウの花粉のように烈しく飛び交うもの以外の何ものでもなかつた筈だ。

渦

静かな初冬の日、藍青一色に凪いだ南紀の海はその一角だけが荒れ騒いでいた。波浪は鬼ヶ城と呼ばれるその岬の巨大な岩壁を咬み、底根しらぬ岩礁のはざまはざまに、幾つかの大きい渦をつくっていた。むかし鬼が棲んでいたと伝えられる広い岩のうてなの上に立つて、私は刻の過ぎるのも忘れて、ただ刻まれては崩されている渦紋の孤独傲岸なマスクに心うばわれていた。

その旅から帰り、都会の喧噪な生活の中に立ち戻って

からも、私はよく、夜更けの冷たいベッドの中で、そこ
遠い熊野灘の一隅の黯い潮の流動を思いうかべることが
ある。そんなときまっと思ふのだ、あそこには鬼が棲ん
でいたのではない、棲んでいた人間が鬼になったのだと。
そしていまこの瞬間もまた、あの暗褐色の濡れた肌へに
息づき、くろい潮のおもてに隠見しているに違いない名
知らぬ藻の、この世ならぬ碧りの切なさを見つめている
と、真実、いつか鬼以外の何ものでもなくなっている己
が心に冷たく思い当るのであった。

日本の風景